



ラスベガス

(写真 帝国書院 2008年8月撮影)

ラスベガスは誰もが知るギャンブルと娯楽と観光の街、ネバダ州南東部の砂漠に出現したオアシスである。実は地下水に恵まれており、19世紀にこの地を訪れたスペイン人が命名した(ベガvegaとは広野や沃野の意味)。年降水量は116mm、年平均気温は19.7度、年間の晴天日数は300日という砂漠で、大雨が降れば大洪水となる。立地条件はよくないが、最近の推計ではラスベガス市の人口は56万、大都市圏人口は200万を数える。どうして砂漠にエンターテイメント都市が出現したのだろうか。

ロサンゼルスとソルトレークシティを結ぶ鉄道の建設に伴って、1905年に町が設立された。1930年代にはコロラド川をせき止めるフーバーダム建設に伴って、建設事業の基地としてにぎわった。さらに、

1931年にギャンブルが公認されるとカジノが開かれ、今日に至るまでギャンブル都市・観光都市として発展を続けてきた。なお、当初は地下水に依存していたが、フーバーダムによって出現したミード湖がこの大都市を支える水源となっている。

市の中心部から南方に伸びるラスベガスブルーバードのうち、6 kmあまりはラスベガスストリップと呼ばれる。ここに世界的に有名なテーマホテル・カジノが軒を連ねる。写真は、南側からラスベガスストリップとテーマホテル「ニューヨークニューヨーク」を眺めたものである。自由の女神(実物の2分の1)の背後には、歴史的な低層建造物(移民博物館、証券取引所など)、そして高層建築(実物の3分の1)がそびえ、50年前のマンハッタンが再現されている。建物の手前に見えるのはスリル満点のザ・ローラーコースター。写真右手には建築中のホテルも写っている。ラスベガスの発展は止まりそうもない。

(東京学芸大学教授 矢ヶ崎典隆)